

まるめろ4月号

介護支援センターあけぼの会
弥生苑デイサービス№264
2022年4月1日発行

新年度の始まり

新年が明けてから四ヶ月が経ちました。各地の桜の開花し弥生苑でも綺麗な桜が満開です。

コロナウイルスの感染状況も少し落ち着いたと思えば、徐々に増えつつある状況です。3回目のワクチン接種も進んで来ていますが4回目の接種の話題も出てきており、弥生苑では、引き続き感染症対策を徹底しご利用のお客様が安心してご利用いただけるように対応して参ります。皆様も乗車前の検温等のご協力よろしくお願いいたします。

3月18日(金)には、おやつの際に初めてお菓子セレクトのイベントを行いました。お煎餅をはじめ様々なお菓子を準備してその中からお好きな物を選んでいただき召し上がっていただきました。4月にも第2弾を予定しておりますので興味のある方は、職員までお声掛けください。



新しいお仲間紹介



一名の新しいお客様が参加されます



4月単発アクティビティー

- ・4月 4日(月) 折り紙教室
- ・4月 9日(土) モールのミニブーケ
- ・4月 13日(水) 端午の節句
- ・4月 15日(金) 春のブローチ
- ・4月 19日(火) 季節の折り紙飾り
- ・4月 21日(木) 頭の体操
- ・25日(月)~30日(土) カレンダー作り



季節の折り紙飾り

モールのミニブーケ



折り紙教室

端午の節句



4月生まれの方



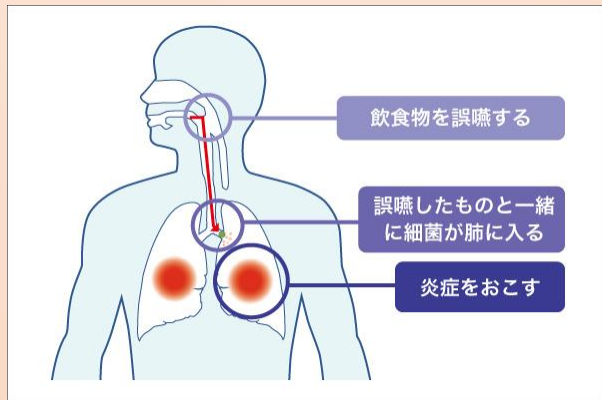
3名のお客様が誕生日をお迎えになります
おめでとうございます!



保健だより ～誤えん性肺炎について～

●誤えん性肺炎はこんな病気

食べ物や飲み物、あるいは唾液などを飲み込むことをえん下といいます。健康な人であれば、嚥下すると口から食道を通過して胃に入っていきます。しかしえん下機能が低下すると口から食道を通過して胃に入ってしまいます。これが誤えんです。誤えん性肺炎は、細菌や唾液や食べ物などと一緒に誤嚥され、気管支や肺に入ることによって発症する病気です。65歳以上の高齢者に起こる肺炎の多くを占めている。



●誤えん性肺炎の原因

①えん下障害

高齢になると、うまく飲み込むことができないえん下障害が起こりやすくなります。病気が原因で起こることも多く、えん下障害を起こす病気の半分以上を脳卒中が占めています。そのほかに、パーキンソン病やアルツハイマー型認知症なども原因となります。また、誤えん性肺炎は、寝たきりの人に多く発症します。

②せき反射の働き低下

通常、誤嚥が起こると、反射的にせきをする「せき反射」により、気管に入ったものを口に戻します。せき反射は睡眠中にも働きますが、高齢者はせき反射が上手くできないことが多く、その場合は睡眠中の呼吸に伴って唾液などが少しずつ気管に入りやすくなります。その結果、誤えん性肺炎が起こることがあります。

③口の中が清潔に保たれていない

特に持病や何らかの後遺症がある高齢者では、歯みがきが不十分だったり、飲み込みきれずに食べかすなどが口の中に残っている場合があります。そうした状態では細菌が繁殖しやすく、飲食物や唾液と一緒に気管に入って誤えん性肺炎を発症しやすくなります。

④体力や抵抗力の低下

高齢者や重い病気のある人は、体力や抵抗力が低下していることが多く、誤えん性肺炎を発症しやすくなります。

●誤えん性肺炎の症状



一般に、肺炎を発症すると38℃以上の発熱や強いせきなどが起こりますが、高齢者に多い誤えん性肺炎では、そうした典型的な症状が現れにくく、「ハアハアと呼吸が浅く早い」「何となく元気がない」「体が異常にだるい」「食欲がない」といった症状が多くみられます。「せん妄」といって、話す言葉やふるまいなど意識に混乱が見られることもあります。本人が体調の変化に気づいていないこともあるので、周りの人もいつもと違う様子を見逃さないようしてください。食事中にたびたびむせたり食後に痰が増えたりするなどの症状が現れる人は、特徴的なリスクがなくても誤えんが起こっていることがあります。日頃の体調の変化に注意し、気になる症状が現れたらすぐ受診することで早期発見につながります。

